

## 学校関係者評価報告書 令和3年度

項目	評価項目	評価結果・課題	課題・改善方策
(1) 教育理念・目標	・創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	今年度も「自立」「清く正しく美しく」は徹底されていたと評価する。	創学の精神と教育理念の周知に努め、更なる発展のために教職員、学生、保護者のみならず、地域にも広く明示し、それに沿って教育を実行していく。
	・職業とキャリアを重視した教育がなされているか	在学生のアンケート結果から、学生が将来のキャリア形成を早い時期から意識して、計画的に資格取得や課題細目に取り組んでいると評価できる。	来年度もキャリアと職業を意識した教育を行っていく。身につけた技術を活用できる職業と、キャリア形成のためにはどういった道筋を立てていくか、日常の授業から意識づけていく。
	・専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	専修学校が求められる役割を自認し、ニーズに応える学校づくりに努めていたと評価する。世情に合わせた柔軟な対応を心がけ、ニーズに合った学校づくりを図った。	専修学校が求められている役割は世情・情勢などによって大きく変化するものであるため、そのニーズの変化をいち早く汲み取れるように常日頃から情報収集に努め、柔軟な対応を図っていく。
	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の理念や将来構想などが学生・保護者等へあまり周知されていないことが挙げられる。新校舎建設の計画や補助金の利用など説明が徹底できなかった点があり、一部から不安に思われる声が寄せられたことは、来年度に向けて解決すべき課題である。	学校側から保護者へ直接お知らせができるマチコミメールなどのツールを活用していく。お知らせを定期的に配信することで、学校の方針や教育活動を広く保護者に周知し、保護者理解を深めていくように努める
	・専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	専門教科に重点を置いた教育に努め、即戦力となる人材の育成に努めたと評価できる。更なる人材育成に努めるため、一般教科や特別教育活動にも注力していく。	即戦力となる人材に何が求められているか、ニーズの汲み取りを多角的に図り、それを人材育成目標に組み込みながら、人材育成に努めていく。
(2) 学校運営	・校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	校務分掌に於いては、毎年課題として挙がっている。今回の自己評価でも反省の対象となっている。なかなか解消に至らない要因としては、未だ明確化できていない部分があるためだと思われる。協力体制の整備が急務である。	課題対策として、校務分掌のカテゴリ・係を明確化することによって教員が校務に取り組みやすいように整備する。外部からの連絡なども、校務分掌で割り振られている担当教員に適切に配することで、更なる自認の向上と校務分掌の効率的な遂行に努める。
	・事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか	事業計画は綿密に立てられているものの、共通理解のもと運営されているかに関してはやや改善の余地があると思われる。教職員の間での情報共有を徹底することが求められる。	教職員の情報共有に関しては、様々なツールの活用が改善の方策として挙げられている。グーグルカレンダーなど一目でスケジュールがわかるツールを導入することによって、事業計画のスムーズな遂行に努める。
	・運営組織や意思決定機能は職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか	意思決定機能については職員会議等で十分に諮られている。そのうえで機能していると評価できる。	来年度も引き続き朝の職員会議のみではなく、夕方など空き時間に必要に応じて会議を設定し、意思決定を行っていく。

	・人事、給与に関する規程等は整備されているか	人事・給与規定は教職員に明示し、周知に努めるとともに教職員の働き方の改革を行い、安心して働ける環境づくりに努めた。	人事・給与規定を引き続き教職員に明示し、安心して働ける環境づくりに努めていく。
	・業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	業界との連絡は密に行い、様々な情報を収集し校風や教育理念に合った関わり方を展開した。	業界や地域社会と密接な信頼関係の構築に努め、様々な情報収集・広報などにも役立てていく。
	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	教育活動はHP、SNSなど様々な方法を活用しながら公開された。また学生に向けても、学校での教育活動の周知が徹底された。	教育活動の広報の方法については、日々新しい方法が出てくるため、公開する情報の性質によってツールを変えながら対応していく。
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	年2回の教育課程編成委員会を開催し、委員からの意見を取り入れ、教育課程の編成を行った。幅広い視点からの意見を求めることで、教育課程の充実が図られた。	教育課程編成委員会に関しては、来年度も深い知見を有した委員からの意見を取り入れ、教育課程編成を行っていく。
	・業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	教育と時間の配分は明確にされ、全体のニーズに応える内容になっている。来年度も教育内容と時間配分を定期的に見直し、弾力的に調整をかけていく。	業界が求めるニーズは変化し続けるものであることを踏まえ、教育内容、時間配分は定期的に見直していく。
	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	体系的に編成されたカリキュラムに沿って授業が進められた。オンデマンド・双方向型授業など、オンライン授業も科目によって特性を使い分け、対面型授業と併用して授業が行われたことを高く評価する。	新型コロナウイルスの流行はやや落ち着きを見せてきたが、オンライン授業は今後も活用していく必要がある。教育方法の工夫・開発という面に於いて、オンライン授業の研究を進めていく
	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	例年と同様に、教育課程編成委員会で策定したカリキュラムに則り、適時カリキュラムの見直しが行われた。	来年度も適時カリキュラムの作成・見直しを行い、企業・関係施設等などからも広範的な意見を求め、より充実したカリキュラム作成に取り組む。
	・関連分野における実践的な職業教育(産学連携事業)は体系的に位置づけられているか	外部依頼は被服構成実習などに充てられ、産官学連携事業は体系的な位置づけに該当していたと評価できる。カリキュラムに体系的に位置づけられていることを踏まえ、こおりやま産業博などオンライン環境を活用し上進を図った。	実践的な職業教育という視点に立って体系的に位置づけられているため、産学連携事業は来年度も同様に行っていく。様々な外部依頼などもうまく取り込みながら、授業を遂行する。
	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	職業教育に対する外部関係者からの評価は都度取り入れられているものと評価する。その意見を教育活動・教育環境の整備に役立てていく。	外部依頼のあった関係企業など、現在の外部関係者のみならず幅広い意見を募り、多角的に分析することで、更なる教育活動・教育環境の向上を企図する。
	・授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定は学則及び内規によって定められている通り、シラバスによって明確化されている。	学則及び内規によって授業、成績、単位の評価と認定を行っていく。進級・卒業判定の基準を明示することによって、学生達の自己管理並びにカリキュラム進行に反映させる。
	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な	オンラインでの受検対策は、カリキュラムの中での体系的な位置づけに該当するものと評価する。	オンラインでの受験対策が体制的に整ってきたため、来年度も更なる整備に努めていく。また何のために資格を取得する

	位置づけはあるか		のか、資格を取得する必要性は何かなど、学生の意識づけも並行して行っていくことで意欲向上を図る。
	・人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	カリキュラムに沿った授業を行う教員は備えているが日々変化していく産業発展を注視し、最先端の技術を備えるためのさらなる努力を期待したい。	カリキュラムの目標を更に明確化し、教員の要件を教職員間で共有し、適時教員と講師を配置し更なる授業の充実を試みる。研修や教員の指導力育成は十分取組まれているが、来年度は更に備えるべきスキルを審議したうえで、研修に臨み、教員一人一人の質の向上を図る。
	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	教員研修は計画的に行われ、教員の質向上に大いに寄与している。ただし関連分野における技術・技能の上進は目覚ましいものがあるため、積極的に情報を取り入れ研修に臨むことを期待する。	来年度は更に備えるべきスキルを審議したうえで、研修内容を慎重に決定する。研修によって教員一人一人の、技術、指導力両面からの質の向上を図る。
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか	就職率の向上には取り組まれていたが、結果として就職先未定となった卒業生がいるため、昨年度と比較して結果的には若干低下したと評価する。来年度に向けて、有効な対策手段を講じる必要がある。	卒業学年では課題細目や行事と並行して就職活動を行っていくため、就職活動の時期を早め、合間を見て行えるようにする。そのため、エニアグラム診断、企業研究などを早い時期に行い、活動できる時期を前倒ししていく。
	・資格取得率の向上が図られているか	グーグルクラスルームなど学生のみが閲覧できるネットツールで、検定対策のために過去問を公開したことは合格率向上に大きく寄与したと評価する。学生の資格取得への意欲は高いため、その意欲向上に伴う合格率の向上が急務である。	受検率は前年度に比較して悪くはないものの、合格率は伸び悩んでいるため、検定対策の授業に於いて、一人一人の理解度に合わせたアドバイスをを行い、合格率の増加を図る。
	・退学率の低減が図られているか	退学を希望する学生に対し、適時ケアを行う姿勢は高く評価する。また、退学率が低減されたことも評価されるべき点である。	退学率の低減は引き続き来年度も取り組んでいく課題である。退学希望者に対して手厚くサポートしていく姿勢を継続していくべきである。
	・卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	卒業生の活躍をお仕事図鑑という形で活用していく計画があるのは評価できる部分である。卒業後どういった進路を選択できるのかという部分は、学生のキャリア形成へ大きな効果を生む部分であるため、今後も継続していく必要がある。	卒業生の活躍を分かりやすくまとめた紙媒体の発行だけではなく、インターネット媒体で紹介していくことも今後検討していく。また、卒業生がどのようにその職業を選択したのか、在学生と直接話す機会を設けることも大きな後押しになるため、幅広く、様々な方法でキャリア形成への活用を企図していく。
(5)学生支援	・進路・就職に関する指導・支援は行われているか	進路に関する指導・支援は充実していたと評価する。服飾科からの編入、研究科への進学など、昨年度より増加しているのは支援体制が整っていたからだと考えられる。就職に関しては、就職希望の学生が進路指導担当教員と相談が重ねられなかったなど、やや課題も見受けられた。	進路に関しては来年度も同様に手厚くサポートしていく体制を進めていく。就職に関しては、進路指導担当教員を学生に周知し、窓口を一本化、また相談できる日程を学生に告知することによってより充実した就職支援を行っていく。

	・学生相談に関する体制は整備されているか	学生相談に関する体制の整備に関しては、上記でも自己評価でも課題として挙がっている通りである。進路・就職に限定しない学生相談を整えることは、学生の満足度にも大きく寄与する部分であるため、今後はより重視していく点である。	就職相談、進路相談、学生生活相談として担当教員を学生に周知し、相談しやすい環境づくりに努める。また教員間で情報を共有し、学生本人の臨む結果になるよう学生の希望を十分汲み取ることが肝要である。
	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	経済的な支援体制は十二分に整えられている。従来の貸与奨学金だけではなく、高等教育無償化による給付奨学金も充実した内容で提供されている。また、家計急変など家庭の状況によって使い分けられるよう整えられている。	支援体制が整ってはいるものの、支援を受けたいと考えている学生に周知されているかどうかを分析し、どの制度を利用すればよいか、どう効果的に活用できるかを教職員が一様に理解していることが肝要である。そのために複雑な制度ではあるものの都度制度の仕組みやスケジュールなどを共有し、理解を深める努力をしていく。
	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	インターンシップを始めとする課外活動への支援は整っていると評価する。学生が幅広い活動で利用できるよう、学内での周知に努める必要がある。	学生が活用しやすいよう、支援体制の周知を担当教員からだけでなく、進路指導教員などとも連携して口頭、文書などで周知していく。
	・保護者会と適切に連携しているか	保護者会との連携は適切に行われていたと評価する。保護者が学校に求めるサポートが変化していることを念頭に置くというのが昨年度挙げられた課題対策であったが、保護者と担任教員間で密な連絡を行った結果が良い方向性に進んだものとする。	保護者と担任教員の連絡は主として電話であったが、マチコミメールなどのお知らせツールを活用することによって、学校側だけではなく保護者の負担軽減にもつながるとの意見が出ている。そのため、お知らせやイベントなどを幅広く保護者にも告知し、教育活動理解へとつなげていく。
	・卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	卒業生からのニーズを踏まえた環境づくりに関しては、卒業生からの聞き取りが進んでいるが、関係各所に諮りながら整備に努めていく必要がある。	新校舎建設によって大きく教育環境が一新されるタイミングでもあるため、幅広い年代の卒業生から更に意見を求めていく。
	・中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	福島県専修学校各種学校連合会と連携した、中学校をメインの対象とした出前講座では、職場体験が行えなかった中学校からの依頼が増加した実績を高く評価する。中学生のキャリア形成教育の一助となったが、将来学生募集の基軸にもなる年代であることを念頭に置き、更に努力することを期待する。	出前講座で中学生の年代で服飾への関心・興味を高めるためには、今年度の実績をもとに、更に魅力的な企画を練っていく必要がある。また、職業教育の一環として、服飾の仕事幅広く紹介していく取り組みも考えていく。
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	新校舎建設の節目を迎え、12月末には仮校舎に移転するなど、大きな変動があった年度だった。業界や各種企業などからニーズを汲み取り、より実践的な教育が行われる環境づくりを期待する。	現在どのアパレル会社・縫製工場でもCADシステムは使用されているため、アカデミック版などから着手し、将来を見据えて学生の学習に反映されるよう努めていく。
	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	実践的な職業教育を行う場として、インターンシップ先が確保されているのは高く評価する。自分の力を活かせる職業に就けるのだという実感は非常に重要である。今後はイ	インターンシップ先として現在は服飾科・プロフェッショナル科ともに同様の企業に行っているが、今後、プロフェッショナル科は更に向上を見込める企業でインターンシップを

		ンターンシップ先の企業の拡充も検討していくべきである。	行い、インターンシップの受け入れ企業の拡充と更なる職業教育の充実に努める。
	・防災に対する体制は整備されているか	今年度も地震被害に見舞われるなど、何に対しても万全を期して備えておくべきである。防災体制は整っているが、気を抜かずに来年度も防災に努めていく。	仮校舎での授業体制をとっているが、緊急避難や、災害時の連絡網は以前よりも万全を期して整えていく。また、慣れない環境下にあっても安全に避難するため、避難訓練なども随時行い、学生にも常日頃から防災・安全への意識づけを行う。
(7) 学生の受入れ募集	・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	情報提供は適切に行われていたものの、来校者や入学生の数からすると積極的にという部分が該当しないものと考えられる。高等学校への直接の訪問だけでなく、SNS など幅広いツールを利用しての情報提供を期待する。	高等学校へは学校訪問で情報提供を行っていることが多いが、現在は学生募集に於いては個人での活動が主であるため、学校向けの情報と、個人向けの情報とを切り分け、適切に、また情報内容が古いまま放置されないように積極的に発信していく。
	・学生募集活動は、適正に行われているか	ネットツールを活用し、積極的に、効果的に取り組んでいると評価する。ネットツールによる効果は高いが、来校、入学者の割合増加が望まれる。	ネットツールの活用は現状通りに行っていくものの、競合校や学生の状況などの情報収集を強化していく。3か月ごとに来校者数など明確に目標を設定し、手法については適時見直しと分析を行いながら、入学者の増加を目指す。
	・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	資格取得・就職状況などの情報や、教育成果は正確に伝えられたと評価する。課題としては、より広範的に周知していく方法の確立である。	卒業生の現状を追いかけたお仕事図鑑を入学希望者、在校生、また学校関係者に幅広く配布し、教育成果の周知に努めていく。紙媒体だけではなく、ネットなどの発信も活用し、入学希望者が必要とする情報にたどりつきやすく整えていく。
	・学納金は妥当なものとなっているか	関係部門で検討し、理事会などによって決定されているため、妥当な金額設定であると考えられる。ただし、納付している学生や保護者が、学納金が妥当であると判断できる程度には教育環境・設備などに目に見えて反映される必要がある	保護者会総会などによって学納金の使途は明確に示されているが、収入に対して予算を年度内に使い切っているかなど、誰が見ても更に明快である必要性がある。また新校舎建設費用のための支出も、新校舎に入った学生や保護者が十分に納得できるよう設備に反映して整えていく。
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	中長期的には安定しているといえるが、新校舎建設などもあるため、財務基盤となる入学者・学生数の増加には努めていく必要がある。	安定に慢心することなく、消費節約、入学生の増加、収入の増加を試みる。課題対策を忠実に行うことで、財務基盤の更なる安定化を目指す
	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	理事会・評議員会において、適宜確認を行っており、有効かつ妥当である。	努力目標を定め、努めていく
	・財務について会計監査が適正に行われているか	財務について会計監査が適正に行われている。	努力目標を定め、努めていく
	・財務情報公開の体制整備はできているか	財務の情報公開体制整備はできている。	努力目標を定め、努めていく
(9) 法令等の	・法令、専修学校設置基準等の遵	監督省庁の許認可を受け、適正かつ適切に学校運営がなさ	努力目標を定め、努めていく。

遵守	守と適正な運営がなされているか	れている。	
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学生・関係者等の個人情報の取り扱いについて十分に注意を払い、書類・データとも適切に管理され、保護されている。複雑な家庭環境にある学生もいるため、トラブル防止の観点からもより堅固に個人情報の取扱いに取り組んでいく。	日々個人情報保護法等の理解・徹底に努め、個人情報管理の強化を行っていく。また、学校関係者などにも個人情報保護の方針を伝え、不測の事態を未然に防ぐ対策を行っていく。
	・自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか	教職員による自己評価は適切に行われ、また自己評価への分析も行われていると評価する。その自己評価結果も適切な方法で行われている。	自己評価・自己分析だけで満足することなく、更なる向上のために意欲的にPDCAサイクルを回していく。
(10)社会貢献・地域貢献	・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア活動を行い、地域社会への貢献を行ったことを評価する。	地域と関連したボランティア活動を行い、学生のボランティアに対する意識付け、意欲増進を行っていく。
	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	地域に対する公開講座を開催し、中学校、高等学校などで教育内容の周知に努めたと評価する。今後は更に広い範囲、あるいは基盤となる郡山市内での公開講座の周知に努めていく必要がある。	公開講座に関しては来年度も同様に、積極的に取り組んでいく。郡山市内での周知に関しては、学校情報の発信と同様、SNSやチラシ配布など様々な手法を用いて活動を周知していく。
(11)国際交流	・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大などがあったため、難しかったと評価する。今後の状況を踏まえ、積極的な取り組みが行われるよう期待する。	新型コロナウイルスが下火になってきた状況を見て、留学生学校説明会の参加や英語版パンフレットを作成するなど留学生受け入れ体制を整える。更に積極的に留学生の就学支援にも取り組みを行い、募集活動を外部に向け行うようにする。